Weekly Eyes ～エネルギー Energy ～

エイチ・エス・フューチャーズ株式会社

2008/11/14

□ アナリスト週間相場予想

	原油 OIL	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎	↗	↗	↗
西	↗	↘	↗

Pick up News

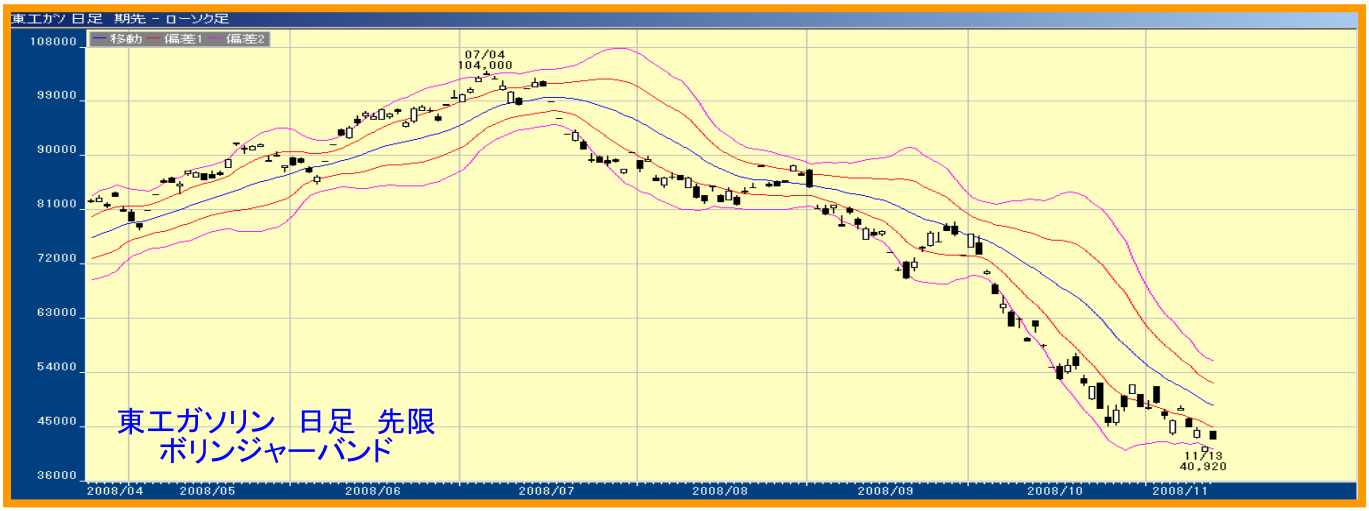
〔注目スケジュール〕

11/18　原油・石油製品供給統計週報（石油連盟）

19　米エネルギー情報局（EIA）週間在庫

21　米商品先物取引委員会（CFTC）建玉報告

□ テクニカル分析（担当：西 勝之）



先週に引き続き原油と灯油に比してガソリンの弱さが目立つ。ガソリン売りクラックとガソ売り一灯油買いストラドルが順行を示しているのでエナジーセクター内のスプレッドはやはりガソリン売りに原油か灯油のヘッジ戦略が有効であろう。エナジーセクター全体としては、貴金属や穀物セクターに比して弱さが目立つ。11/10～14日の今週の中でも貴金属と穀物セクターはここ最近の安値更新を回避できたのに対しエナジーセクターは11/13に新安値を更新し、ガソリンに至ってはボリンジャーバンドの－2Σがはっきり下降をし始めている。貴金属と穀物が安値圏の逆バリに入っている中、エナジーだけは売り中心に考えるべきであろうと感じる（11/14　14:45）

□ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

NY原油相場は一時55ドル台を割り込むなど、ここへきて下落圧力が増している。それを裏付けるかのように、国際エネルギー機関（IEA）は11月の月報にて、「金融危機が続く中で過去数週間、劇的に悪化した」と指摘し、2008年の石油需要を前年比12万バレル増へ、2009年需要を35万バレル増へとそれぞれ下方修正している。特に2009年の需要に関しては3カ月連続の下方修正となっており、前月時点の予測よりも67万バレルも低下した。まさに金融危機が実体経済へと大きく影響してきていることを示しており、状況次第では今後も見通しが引き下げられていくものと思われる。既に外資系の石油アナリストからは40ドル台を予想する見方も出ており、下値メドが見えづらくなったのは確かである。60ドルを割れてからは5ドル刻みで下値の節目となりやすいとの見方を提示していたが、およそこのラインで相場は動いており、55ドルをつけた今、リバウンドでどこまで上値を伸ばせるかという段階であろう。きっちり底入れできなければ、じり安歩調を辿る可能性に改めて注意が必要となりそうだ。

現状はこのように冴えない状況だが、流れに変化をつけるとすれば、それは株高が必須条件か。投機色が消え、需給に沿った形で動いている今は景況感の変化に相場は左右されやすく、実際に株価と正の相関が見られることが多い。その株価は金融サミット、あるいは週半ばに開催されるであろう米自動車業界救済へ向けての公聴会がポイントとなりそうだ。月内にもOPECが追加減産に踏み切るという見方は否定できないものの、実現にはハードルが高いか。突っ込み売りは避けるべきだが、海外高を見て安易に飛び乗れない構図が描かれている。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0079（許可取得日08/11/14）